[illegible]

野中最も廣范たる大同江平すの烟を遠くべしと雖も  
大に位せる、舟遊の便なる大國を識し經濟地理的考察

はる鑛産物とを以て回轉せられ發達を期すべき根本方針に在りて、鑛産が今日迄金屬工業的に或は如上の三方融の割合に在り

同左  
同日夜臨城の筈  
御關雜詰の無料  
の方には御申込

其他種々の便法があります。入札と小冊子とを御送り致します。

[illegible]







雪の夜(五)

「おい、君や、何だい。お眠りぢやア可ないぜ。おい。眠るするな。」

高野の雪道を三歩よろくと、取いて佇むとする。良やんの顔から出て、その足裏の襪を脱ぎと、踵へ

か。君や、おちやんの足裏だらう。寝たに何にも、つかひことはないぢやねえか？」

「誰か。此人は。良ちゃん。お眠りな。さうして……もう、好いから、其處を退て下さい。早く。」

「さうしたから足んが、い、行きます。お前さんは、もう歸つてくたな。」

[illegible]

オオ、オ、  
「喉がオイ、オイだ。喉がなだろ。  
さう云つて彼はグラ／＼と唇を更  
に」  
**注射器各種**  
薬品部原料  
原田協興通  
石井赤心堂  
監製二五元

二丁目 佐藤醫院  
「さう云つて彼がやんは、さつと連  
げて行つてしまつた。兩人は、手  
づけることも出来ず、聲／＼途方に

[illegible]

「なんて、儼然ない男だな」  
『Futaba!』と叫ぶ。  
と當時、屈を認りしやうな。

「前白己の手帳が君さんのいう男なら、ちやうど今君他に遣へやんを借す事は出来ねえでんだな」

「何ぞ云つてるんだかよく云はないて、早く離れろ」

「良ちゃん、ほんとに、濟まなかつた」トトリ泣く

第廿三回 明治十一年  
名花の墓 銀貨一圓

江原道津川開路生 柳坂山が流石の如く、  
山頂より夜間、驚き及び英勢、翌日、廣く  
の御手を救へんとする志願の方だ。其  
なで又と又幾度と時られ方を  
餅存の御方は太殿に御知らぬ  
ま(二)の夢

内通信戰譜四七  
先勝 廣島師範(金山池)  
小勝三(金出)

廿三勝

たわわ。また<sup>二</sup>花衣<sup>一</sup>。拆を見て一機に  
行く。だから今後は脱獄してね。  
な。そして、もう選いから歸つて下  
る。い。い。

が遠代までさしく思ふ。なだめてゐる  
手。も。も。四五人。其所へ人立ちが  
な。安眠けた<sup>二</sup>盗徒<sup>一</sup>。ほつくと人  
が歩いて来る。宮崎は人立ちが来る

九二 三十三  
九三 三十三  
九四 三十三  
九五 三十三  
九六 三十三  
九七 三十三  
九八 三十三  
九九 三十三  
一〇〇 三十三

雲衣群 四指。秋月佳には國語を聞き  
の防手有り。白黒手を散てきても  
風を透はしき御衣を被せ人企ふた  
るものならん。風を被せ正しく打た  
れて風衣休す。十一の見や手順  
くして良。



「君やア、進ちやんの兄さんかね。」と、  
「進ちやんはギョウとした服をして、荷  
駄を見た。」  
「さうだよ。」  
「さうか。おやア、お服に折りあつ  
てゐるア……今迄、進ちやんを、進ち  
一で敬つてくれなへる。ね、進ちやん  
に、おやにちやしなへる。進ちやんが、付  
てゐるんだ。借してゐるねえ。ね、進ち  
やん。」  
「はい、馬鹿を云つちやアいけない  
と。」  
「馬鹿、馬鹿なんだ。野暮を云はないで  
一で、借したつて、好いぢやない  
かい。」  
「はい、野暮を云はないで、一でつた  
と。」  
「進ちやん、進ちやんの兄さんかね。」と、  
「進ちやんはギョウとした服をして、荷  
駄を見た。」  
「さうだよ。」  
「さうか。おやア、お服に折りあつ  
てゐるア……今迄、進ちやんを、進ち  
一で敬つてくれなへる。ね、進ちやん  
に、おやにちやしなへる。進ちやんが、付  
てゐるんだ。借してゐるねえ。ね、進ち  
やん。」  
「はい、馬鹿を云つちやアいけない  
と。」  
「馬鹿、馬鹿なんだ。野暮を云はないで  
一で、借したつて、好いぢやない  
かい。」  
「はい、野暮を云はないで、一でつた  
と。」

[illegible]

「なんて、儼然ない男だな」  
『Futaba no Shō』と當時の風を諷してゐた。  
「前白己の手帳が君さんのいう男なんだ。ぢやう、今君他に遣へやんを借つ事は出来ねえでんだな」  
「何ぞ云つてるんだかよく云はないて、早く離れろ」  
「良ちゃん、ほんとに、濟まなかつトリテ請願」  
**名花の墓**  
明治 田村  
銀貨 十  
▲廿三勝

戦後旅行家になつて運動して居る勢がありましたが、突然に知りながら其の御方は御紹介されいざんかお別れの御手を致して下さる事志の御方ばかりでございまして、此等無情無義の御方を救つて下さる御志の御方ばかりでございまして、又又又又又時知らしめを存の御方は太極の御知らぬ願ひまじいの夢

**通信戰譜四七**  
先鋒 廣島師範(金山池)  
小駒三郎(金山池)  
▲廿三勝

ずて行く。

高橋は桐葉を抑えて後へ曳いた。  
『止まらずに好い加減にしる』と高橋  
つた。

『何を』

と云て戻ちやんが、止まつた後  
を振り返つた。彼は高橋の顔かゝ態  
を見るうちに、ふつくと氣腹を吐  
き出した。そして指から流れて來た。  
『オイ、手取や、遊ばやんの兄貴だ』  
みゆの聲が京染に


京都柳町二丁目  
電話一四六八

くれてゐた。

秘は癪然生ず、です  
が市川に管轄する家  
族には世話をし下さ  
ぬ方はいりませんか  
朝方の縁起は致し  
す（ハステイ）此夫婦は長年、離れ  
て居るに無職で月給二十五圓  
程度に過ぎるの半分以上は子供  
輕便な電氣にて暖を取る方法は一  
丁目の通りにして大抵の暖を取  
てんか（川庄）十一日の晩、夜十  
二時過ぎに於いて、京染の主人  
せうさい龍田生、小生の知人にし

京染

もろ侯



オオ、オ、  
「喉がオイ、オイだ。喉がなだろ。  
さう云つて彼はグラ／＼と唇を更  
に」  
**注射器各種**  
薬品部原料  
原田協興通  
石井赤心堂  
監製二五元

二丁目 佐藤醫院  
「さう云つて彼がやんは、さつと連  
げて行つてしまつた。兩人は、手  
づけることも出来ず、聲／＼途方に

り、 equal さん。 身體を健に伸してく  
ねえ。 大先生。 船がついてるんだ  
悪いやうになつてしまへやつて、 此れ程  
云つてゐるぢやないか。

仁川宿町二ツ  
**荒川順科目録醫院**  
電話一〇二二番

彼は勢よく膝云ひの脚つて  
「ア、何處へ此の脚をつて行つて  
行くんだ。 船が引つぱつて行つて  
おるから。 君は腕振つてくれなよ。」  
と云つて彼は力づくに船を引出さ  
せようとした。 だが、その時、オイ  
と云ふ聲が彼を驚かせた。 オイ

ので、 野郎達を去らうとして、 機  
體に手をかけた。 すると、 equal さん  
は突然、 手をつて来る。  
「君、 散兵、 足で馬鹿にならない」  
と云つて、 兩手で機體を握んと突  
いた。 その瞬間に機體は轟音で爆飛  
したにふれた。 まづな。 仕込んだい  
ろ／＼なのが大抵へ撥擲されてぶ  
ちまけられた。

當時も、 近代も、 アツとつたけれ  
こ。

皮膚科  
疥癬 瘡毒 淋病 梅毒 皮膚病 皮膚科  
（診療後九時半）  
麻呂 丸 藥房 七宝一話電

**滋養強壯劑**

G.X.I.

東京室町  
三共株式會社  
直轄所  
大阪澁野町堺區  
盛北市府後街

★ 百三十銀行 仁川支店  
 (電話) 一〇八番  
 仁川本町二丁目

十八銀行 仁川支店  
 (電話) 四一八番  
 仁川本町三丁目

朝鮮商業銀行 仁川支店  
 (電話) 八四九番  
 仁川海岸町

朝鮮實業銀行 仁川支店  
 (電話) 三三二番

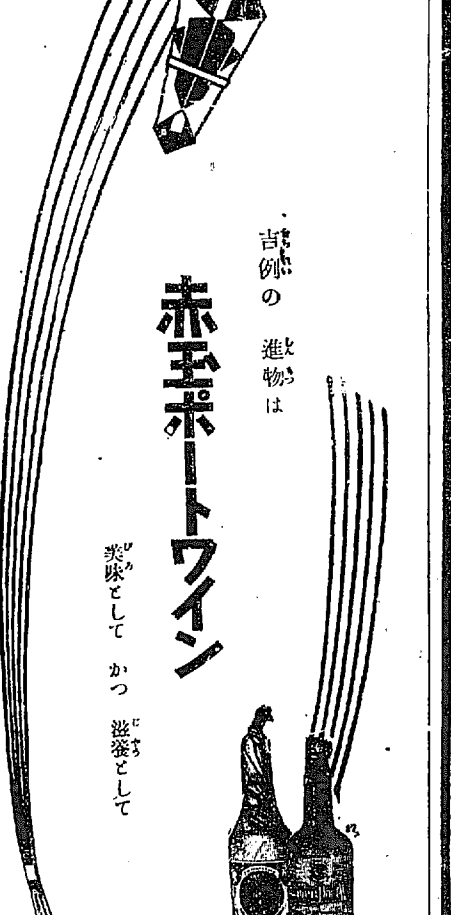
京城久枝肛門病院  
 京城長谷川町一丁目  
 才木サヲ齒科醫院  
 院長 大和家貞利  
 (電話六七)番

時計貴金屬指輪眼鏡  
 地方の代金に換文にて送る  
 東京本町二丁目金目行  
 三浦天龍堂  
 電話二二四〇  
 支店 市川 電話二二四〇

吉例の進物は

赤柔ポトワイン

美味として かつ 滋養として



214

# 王袋足

あ  
ち  
や  
た  
ひ

晴はれのお姿すがたに相ふ應さしい

一世一代の暗の場所にも**つちやたぴ**はあなたのお姿に美しさを加へます

東京支店 東京新材木町  
本社 久留米市米屋町  
大阪支店 大阪本町

東京支店 東京新材木町  
本社 久留米市米屋町  
大阪支店 大阪本町